

各 位

平成 14 年 4 月 24 日

会 社 名	三菱レイヨン株式会社
コード番号	3 4 0 4
問 合 せ 先	広報・I R 室長 畑岡 高昭
T E L	(03)5495-3100

中期経営計画について

三菱レイヨングループは、この度、2002年度からの第4次3ヵ年中期経営計画「プログラム：US 2004」を策定いたしました。21世紀に成長していくための基盤固めであった第3次中期経営計画「US 21」の後をうけ、「プログラム：US 2004」は、当社グループの経営基本目標である「高収益型・高成長型企业グループ」の実現に向けてのスタートとなります。

これからの3年間は、成長計画を本格的に実行する期間と位置付け、
「ポートフォリオマネジメントの徹底」により、強い事業をより強くすること
競争条件の大きな変化に対応出来る経営構造・事業構造を構築するため、「抜本的な収益構造・費用構造の改革」を早く実現すること
により、2004年度に売上高3,400億円、営業利益300億円の達成を目指します。

・「プログラム：US 2004」(2002～2004年度)の概要

「US 21」で計画した事業の構造改革や合理化の目標はほぼ達成しましたが、今後も事業プロセスの合理化への取り組みは継続的に実施するとともに、成長が期待できずかつ収益性の低い事業については、残された課題として引き続き構造改革を進め、同時に、経営資源をコア事業と成長が期待できる事業へ集中させ、ポートフォリオマネジメントを徹底していきます。

1. ポートフォリオマネジメントの徹底と成長シナリオの実践

アクリル系事業への経営資源の集中

当社グループの事業体系の根幹であるアクリル系事業(MMA系事業とAN系事業)については、強いものをより強くする、強くするものは早く強くする、との観点から、経営資源を優先して投入します。

水・環境事業の拡大

成長が期待できる水・環境事業については、浄水・下排水処理市場向け事業に資源の集中的投入を行い、期間内に相応の事業規模拡大を目指します。

成長ポテンシャルの高い事業の絞り込み

新規事業で、事業開発段階が終わった既存テーマについては、事業部へ移管し事業化へ向け加速させます。その他のテーマ、候補については、対象を絞り込みます。

2. 収益・費用の構造改革推進(事業革新活動「JK 2004」の推進)

ビジネスモデルの革新に取り組み、コスト構造の改革を進め、総合的な競争力の格段の強化を図ります。2004年度に90億円の合理化が目標です(対2001年度比)。

3. 研究開発力・技術開発力の強化

優位性と独自性を併せ持った「ユニークでスペシャリティーな事業」の発掘から事業化までの一連のプロセスを加速させるため、組織の機能強化と運営体制の簡素化など、現行の仕組みを改善します。

4. 環境問題への対応

環境保全に関する強い経営意志のもと、環境負荷物質の削減目標を設定し、着実に達成に向けて取り組みます。また、2002年度から環境会計を本格的に導入し、公表します。

・中期経営目標について

2000年4月の中期経営計画見直し発表の際には、「ありたい姿」として中期の経営目標を明確にし、それに至る道筋と方法を具体化しました。すなわち、基幹事業であるアクリル系（MMA系とAN系）事業体を世界有数の事業体に育てあげることと、さらに新たな成長領域で基幹事業を構築することにより、2005年度に売上高4,000億円、営業利益400億円を達成するというものです。

この内容については、事業の枠組み変更、環境変化の要因から、具体的な数値目標や、達成年度の一兩年の遅れ（2006～07年度へ）など、若干の修正が必要ではあるものの、成長姿勢の基本は変わっていません。

・数値計画・目標について

「プログラム：US 2004」における数値計画、及び、数値目標は、次の通りです。

【セグメント別数値計画】	（単位：億円）			
	2001年度 予想	2002年度 計画	2004年度 計画	2006～07年度 目標
売上高	3,060	3,000	3,400	4,000
化成品・樹脂	1,240	1,080	1,300	
繊維	970	950	950	
機能製品・エンジニアリング	850	970	1,150	
営業利益	190	220	300	400
化成品・樹脂	135	130	160	
繊維	25	40	60	
機能製品・エンジニアリング	30	50	80	
総資産	3,500	3,400	3,500	
有利子負債	950	900	800	
投資額	170	(3年間合計) 750		

以 上